

あ ゆ ち
Ayuchi
[No.103/2026.1]



「未来へはじけるチカラ」一般社団法人ワンダーハート



反射神経など。日々の練習や対戦試合を繰り返して研究するなど、さまざまな経験を積んで自分の中の引き出しを増やしていくことでスキルを高め

誰かが気軽に始められるeスポーツだが、大会に出場しようと思うと、実にさまざまなスキルが求められる。勝敗を左右する操作技術や戦術、状況判断力、瞬発力、一つのジャンルなのだ。

では、名前に「スポーツ」と付くeスポーツは、ゲームと何が違うのだろうか。結論からいえば、eスポーツとゲームに違いはない。

ゲームを楽しむ中で「もっと強くなりたい」「技を極めたい」「大会に出たい」という向上心が、eスポーツに繋がっていく。その先でプロの選手が誕生していく。つまり、ゲームという大きな括りの中にある、一つのジャンルなのだ。



代表的な競技種目

対戦格闘ゲーム	世界的な競技タイトルとなっている日本生まれのゲーム
シューティングゲーム	三人から五人のチーム編成で競う射撃(オンライン・サバイバル)ゲーム。キャラクター目線で戦う一人称視点のFPS(ファースト・パーソン・シューティング)や、キャラクターを動かして戦う第三者視点のTPS(サード・パーソン・シューティング)がある
MOBA(マルチプレイヤー オンラインバトルアリーナ)	相手チームの本拠地制圧が目的の対戦型戦略ゲーム。コーチや監督のもと、五人対五人などで競う。伝統的な競技タイトルで、国際大会の主要種目
スポーツゲーム	サッカー、野球、テニス、ゴルフなど実存するスポーツをゲーム上でプレイするゲーム
レーシングゲーム(eモータースポーツ)	カーレースをシミュレートした種目。世界的に人気が高い
カードゲーム	頭脳戦が楽しめる対戦型のカードゲーム。eスポーツでは、デジタルならではの演出が加わって、観客にもわかりやすくなっている
パズルゲーム	スマホ一つで誰でも手軽に楽しめるシンプルなルールのゲーム

eスポーツの競技種目は一つではなく、格闘系、バトル系、頭脳系など多種多様なカテゴリーがあり、ゲームの仕様によって個人戦やチーム戦がある。代表的なものに、左記のような種目がある。



eスポーツと変わるところはないのだ。eスポーツの競技種目は一つではなく、格闘系、バトル系、頭脳系など多種多様なカテゴリーがあり、ゲームの仕様によって個人戦やチーム戦がある。代表的なものに、左記のような種目がある。

主流になる競技種目は、国や地域によって異なり、海外ではMOBAが、日本ではFPSや格闘系が人気だそう。これは、ゲーミングカフェで友人と楽しむ文化のある海外と、家庭用ゲームの人気の伴って自宅で楽しむ傾向にある日本の楽しみ方の違いによるものだという。文化的な背景、機材やインターネット環境などの違いが流行をつくっているようだ。

大会で選ばれる競技種目については、開催の目的によって変わってくる。ゲームメーカーが主催する場合であれば、販促したいゲームが競技種目となる。また、オリンピック憲章に基づいて行われるアジア競技大会など公的な大会などでは、倫理面

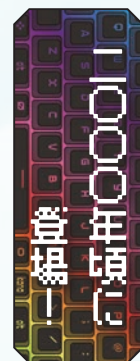
ていく。その過程は、スポーツと共通するところも多い。

ちなみにスポーツという言葉には、競技性、対戦、競争という意味が含まれ、その根底にあるのは「楽しむ」こと。選手の技量を競うeスポーツにおいても、競技がゲームというだけで野球やサッカーなどのスポーツと変わるところはないのだ。

eスポーツって、なに？



2026年9月に開催される第20回アジア競技大会で、正式競技となっている「eスポーツ」。一体どんな競技なのか、一般社団法人愛知eスポーツ連合の理事 岩田滉平さんにお話を伺いました。



「エレクトロニック・スポーツ (Electronic Sports)」。

これが、eスポーツの正式名称だ。電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピュータゲームやビデオゲームを使って行う対戦を、スポーツ競技として捉える際の名称である。具体的には、パソコンを使ったゲーム、携帯型ゲーム、オンラインゲーム、スマホゲーム、ゲームセンターに設置されているゲームなどが対象となり、その中でも競技として競えるものがeスポーツとなる。

コンピュータゲームやビデオゲームは、そもそも娯楽として幅広い世代に楽しまれており、一九八〇年代に家庭用ゲームが一気に普及すると、子どもから大

人まで多くの人々が熱狂した。一九九〇年代には格闘ゲームがブームとなり、ゲームメーカーや仲間同士の間などで競技化が加速。そして二〇〇〇年頃から、ゲーム対戦や大会を表す言葉として、「eスポーツ」が使われ始めるようになった。

その後、インターネットの大衆化により、世界中でリアルタイムでの対戦が可能になると、その様子は配信され、多くの観客(視聴者)を獲得する。特に高い技術を持つプレイヤーが登場する対戦や大会は、野球やサッカーなどのスポーツと同じように興行として行われるようになり、プロ選手が参加する大会として世界各地で開催。日本国内でも、規模の大きさを問わなければ毎週どこかで大会やイベントが行われている。

eスポーツはまさに、IT技術の発展とともに進化している新しいスポーツなのだ。



の配慮が必要となるため、バイオレンスやセクシュアルな表現があるゲームは選ばれない。ただし、シューティングやMOBAなど人気のある競技に関しては、撃ち合いを的当てに変更するなど大会で適用できる表現に変更して採用されることもある。

すべての大会で共通していることは、選べるキャラクターや装備、レベルなど、すべての選手が同じ条件で競うということ。純粹に選手が技量や戦術だけで競い合える舞台となるのだ。

eスポーツはバリアフリー！

老若男女誰もが気軽に始められるeスポーツの魅力は多々あるが、その中でも大きな特徴の一つとして、時間や場所にとらわれないオンライン上で楽しめることがあるだろう。ゲームにログインすれば、同じ時間帯にログインしている人々と楽しむこ



あれば、よく知らないゲームでも戦術や見どころがわかり、どんどん競技の世界へ引き込まれていく。選手たちの卓越した技を見られる、選手と観客が一体となつてつくられる熱い空間は、野球やサッカーなどのスポーツ観戦と同じ雰囲気を持っている。

「推し」を見つけて、ファンとして観戦を楽しみながら、ゲームへの理解を深めていくのも一興である。

選手の動画配信も見てみよう！

動画配信を行う、ストリーマーとして活躍している選手も多くいます。技の解説や、上達していく過程などが見られ、大会とは違う選手の一面を知ることができます！



二〇二六年、愛知県ではeスポーツの大きな大会を二つ控えている。一つは、九月に開催される、アジアの四五の国と地域が参加するアジア競技大会だ。全十一種目十三タイトルで行われ、今回は正式にメダル競技として実施することが決定。日本は七種目に参加する予定で、メダルを獲得で

アジア競技大会 採用タイトル

Street Fighter 6、鉄拳 8、THE KING OF FIGHTERS XV、ポケモンユナイト、Honor of Kings、リーグ・オブ・レジェンド、PUBG MOBILE（アジア競技大会バージョン）、モバイル・レジェンド Bang Bang、Identity V、Naraka: Bladepoint、グランツーリスモ7、eFootball™、ぷよぷよeスポーツ



ASIA esports EXPO 2026 3/21(土)・22(日)

会場 Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）展示ホール D

—代表決定戦種目—

Street Fighter 6、鉄拳8、THE KING OF FIGHTERS XV、グランツーリスモ7、eFootball™、ぷよぷよeスポーツ

主催：愛知・名古屋eスポーツ活性化推進委員会、一般社団法人日本eスポーツ協会

後援：愛知県、常滑市、愛知国際会議展示場

公式サイト <https://www.espoexpo.com/>

会場で
応援しよう！

きる実力は十分にあるといわれている。そして、もう一つの大会は、三月に開催される『ASIA esports EXPO 2026』だ。アジア競技大会の日本代表候補選手選考大会となるこの大会には、日本中からトップで活躍するeスポーツ選手が集結！

アジア競技大会への出場、そしてその先の金メダルを目指した熱い戦いが観られるだろう。ぜひ、会場へ足を運び、選手たちの闘志やファンの熱気に触れてみよう！

シニアの健康づくりでも活躍！？

シニア世代を対象にしたeスポーツのイベントや講座などを開催している自治体もあります。太鼓をリズムに合わせて叩くゲームなどを仲間と一緒に、会話をしながら親しんでもらうことで、皆さんの健康づくりに繋がっていけばと考えられているそうです。



強くなれ、同じステージで競い合えるのだ。好きなときに誰かとすぐ繋がれるeスポーツは、現実では出会えないかもしれない新しい仲間と出会えるなど、自分の世界をどんどん広げていくことができるコミュニケーションツールでもあるのだ。まさに誰もが楽しめる、バリアフリーな競技といえるだろう。

そしてもう一つの大きな魅力は、楽しむ舞台が、キャラクターなどが自分に代わり画面の中で躍動するバーチャルな世界であること。体格や身体能力、もっといってしまえば身体が不自由な方も、性別や年齢も関係なく、技術を磨いていけばどれだけでも強くなれ、同じステージで競い合えるのだ。

ゲームが縁遠い人にとっては、eスポーツは敷居が高いと思う人もいるかもしれないが、そんな方におすすめしたいのが、観戦だ。

eスポーツの大会会場へ行くと目にするのが、大きなスクリーンと、ステージ上でキーボードやコントローラーなどを操作する選手たち。観客は、スクリーンに映し出された試合の様子を観ながら、技などが決まれば歓声を上げ、好きな選手やチームのグッズを手には大きな声援を送る。解説者や実況者のいる大会で



子どもたちには職業体験！

愛知eスポーツ連合では、eスポーツには選手だけでなく、さまざまな職種の人々が携わっていることを子どもたちに知ってもらうために、職業体験などのイベントも行っているそうです。



お話を伺ったのは…

一般社団法人愛知eスポーツ連合理事 岩田晃平さん
アジア競技大会などの大会へもぜひ足を運んでいただき、選手やチームを応援してもらえたらうれしいです！



eスポーツは、よくわからない、難しいと感じるかもしれませんが、まずは好きなゲームを楽しむことから始めてみてください。そして、自分なりの楽しみ方を見つけてみてください。

夏目漱石の小説「門」に、「道は近きにあり、かえってこれを遠きに求む」という一節があります。音楽の道に進むと決めた高校生のときに、思い出した言葉です。

音楽は子どもの頃からずっと好きで、幼稚園のオルガン教室から始まり、エレクトーンやピアノを習ったり、子どもオーケストラに入ってチェロを演奏したりしていました。音楽を勉強したいと思っていたながらも、趣味で楽しんでいくものだと思っていました。しかし、高校で進路を考えると、東京藝術大学に音楽の歴史を学べる専攻があることを知り、「これだ！」と即決。両親に医者や弁護士との道も進められました。が、何かしつくりこなくて、ほかに何があるのかを考えていたので、進路が決まったときに冒頭の「門」の一節が思い浮かびました。自分は知らない、持っていないと思いつつ探していたけど、意外と探しているものは近くにあったり、実は持っていたりするんだなど。

大学での学びは、自分が知りたいことを知ることができ、楽しいの一言に尽きます。チャイコフスキーやラフマニノフなどロシア音楽が好きで、ロシア革命のときにどんな音楽が何のために作られ、人々はそれをどのように受け入れていたのか興味するんだなど。

味があり研究していました。私が大学生であった一九八〇年代のソヴィエト社会主義連邦共和国（ソ連）は、鉄のカーテンで閉ざされており、国の情報が他国へ伝わりにくい時代でした。わからないから怖いというイメージを持たれる一方で、ロシア音楽を好きな人はとても多いわけです。これは一体どういうことなのか、実際に行ってみたいくなりました。

初めての海外旅行でモスクワを訪れたのは、大学三年生の夏休みのときです。シベリア鉄道に乗ってモスクワの地に足を踏み入れたときは、まるで絵葉書の中を歩いているようなふわふわした感じでした（笑）。知り合った同世代の若者に誘われて行ったポーランドのポップスグループのコンサートでは、その場で英語の歌詞を書き留めて覚えて帰った。文化的な制限で公的に認められていなかった西側の文化を、貪欲に求めている若者たちの姿が印象深く残っています。モスクワのほかには、レニングラード（現サンクトペテルブルク）やヘルシンキな



れ、音楽を守らなければいけないという思いがひしひしと伝わってきましたね。その思いは、音楽に携わる者だけでなく、共通の認識として社会にあり、音楽や文化を支える力はきちんと新しい世の中へと引き継がれている気がします。

やりたい道を信じて進むと、自然に新しい道が拓けると思います。

安原雅之（愛知県立芸術大学副学長・音楽学部教授）
（あいちFG教育文化財団評議員）

■安原雅之 プロフィール

1961年、兵庫県赤穂市生まれ。東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、同大学院音楽研究科（修士課程）音楽学専攻修了。2005年に愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻助教授に、2021年に同大学の音楽学部長兼音楽研究科長に就任し、2024年より同大学副学長。旅行の醍醐味は、実際に自分の目で見て、肌で感じられること。現役を引退したら、またどこかへ旅したいと思っている。

どヨーロッパを転々と旅し、いろいろな音楽祭にも行きました。一人旅で緊張もありましたが、多くの素晴らしい出会いや、予想を超える出来事もあり、とてもおもしろかったです。シベリア鉄道の旅の途中で見た、空中がまるで天の川のような美しい星空は、今でもよく思い出しますね。

その後も研究と称してモスクワへ何度か行き、ヨーロッパの国々へも行っています。一九九一年のソ連が崩壊したときは、私はモスクワ大学に留学中で、国の情勢が大きく変わる瞬間を目の当たりにしました。ルーブルの価値は

どん底になり、食べるものもままならなくて人々は翻弄されていました。その中で強く感じたのが、人々の音楽に対する強い思いです。厳しい状況下でも、通っていた音楽院ではレッスンが行われていた。音楽を守らなければいけないという思いがひしひしと伝わってきましたね。その思いは、音楽に携わる者だけでなく、共通の認識として社会にあり、音楽や文化を支える力はきちんと新しい世の中へと引き継がれている気がします。

ロシアでは、まちの中で普通に人々がクラシック音楽や現代音楽の感想を話しています。誰もが、音楽は特別な素晴らしいものというよりは、自分の一部になって生活に溶け込んでいるものなんです。だから、厳しい状況下でも音楽は大切なものがあり、守りたいという気持ちに結び付くのだと。日本でも、クラシック音楽がコンサートホールなど特別な場所です。ただ、自由にはなく、もう少し身近なところで自由に楽しめるようになると思います。

「やってみたい」と音楽の道を選び、「行ってみたい」と思いいろいろな国に行つたことで、さまざまな文化に触れ、社会情勢を知ることができました。そこで経験したすべてのことが、音楽への道筋をつくり、今の私をつくってくれました。自分のやりたいことを信じて進んでいったら、自然とそこにまた新しい道が拓けていくのではないかと考えています。

次世代を担う若い人々には、私たちがけん引してどこかへ導いていくというより、私たちが知らない世界をどんどん開拓していつともらいたいですね。開拓した先の世界を、ぜひ私たちに見せてください。どんなことが起きるのか楽しみにしています。――談――

「童謡や唱歌は短い歌詞の中に深い物語があるのが好きで、日本歌曲は大人の恋などドラマティックな感じがすてきですね」

ソプラノ歌手の加藤恵利子さんは、日本の歌の素晴らしさを、子どもをはじめ多くの人に届けるために『日本の歌、お好きですか?』というシリーズでコンサートを開催。

「同じ作者の童謡と日本歌曲を続けて歌ったときは、おもしろかったです。皆さん、まったく違う曲調に驚かれていました」

日本歌曲などを知らなくとも楽しめる歌を選び、歌の解説とともに披露することで、日本の歌の魅力を楽しく伝えていく。

加藤さんが常に考えているのは、誰もが一緒に音楽を楽しめる場をつくりたいということ。あるとき、聴覚に障害のある方が、コンサートに参加しても、うまく聞き取れないなど楽しめていない部分があることを知る。そんな寂しい状態を何とかせねばと思い一念発起！チャレンジしたのが、耳の聞こえにくい・聞こえない人も、耳の聞こえる人も一緒に楽しめるコンサート『みみコン』だ。

開催にあたり、手話を習うことから始め、

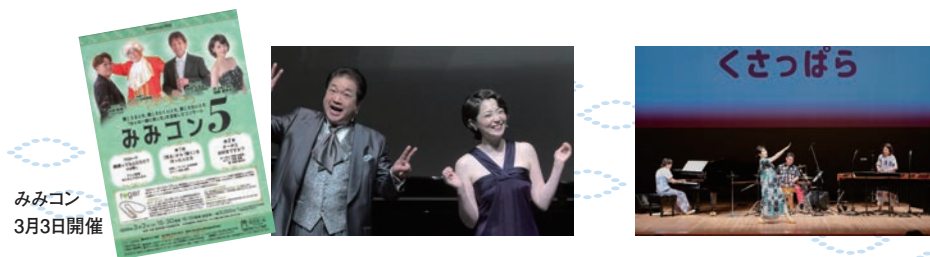


難聴の方々に話を伺い、聴覚障害について多くのことを学んだ。その学びの中で、聞こえない、聞こえにくい度合いは人それぞれであり、多くの人が難聴の方であることを知る。そして、補聴器などを装用してもすべての言葉や音を聞きとれるわけではなく、スピーカーから聞こえる言葉などは、うまく聞き取れずにあきらめている人たちがいることが判明。そこで考えたのが、補聴援助システムを用いた、字幕付きのコンサートだった。

実際に字幕の歌詞を見て、「こんな漢字を使うんだね」「改めて文字で見ると、いい歌詞だね」という声が、一般のお客さまからも寄せられているそう。

「字幕は必要ないと思う方もいるかもしれませんが、曲の新たな魅力を発見することができるかもしれないですね」

二〇二三年より毎年三月三日の耳の日近辺に行われ、二〇二六年は三月三日の開催となる。七月には、子ども向けの『みみコン for KIDS!!』も開催。ひと笑いもふた笑いもできるコンサートで、音楽好きな仲間と一緒に楽しい時間を過ごそう！



音楽好きが、みんな一緒に楽しめる笑えるコンサート「みみコン」♪

ソプラノ歌手、コンサートの企画・構成・演出・出演
加藤恵利子さん

第36回助成(個人)

ソプラノ歌手として東海地方を中心に活躍。自身が企画する「日本の歌、お好きですか?」「みみコン」シリーズのコンサートをはじめ、東宝ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」、戦国オペラ「本能寺が燃える」(帰蝶・お濃役、演出/西川右近)、ナゴヤ座「超極上ナゴヤカブキ『GANKUTUS-O』」などの舞台にも出演。一人でも多くの人に難聴について知ってもらうことで、耳が聞こえない・聞きにくい人と、聞こえる人との壁がなくなっていくことを願っている。



二〇二五年九月の初め、名古屋は学生演劇が熱かった！東海地区で一番おもしろい学生演劇を決める『第二十四回名古屋学生演劇祭』が行われ、大学のサークルや学生主体の劇団など九団体が出場。予選から決勝までの三日間で、四〇〇名近い観客を動員した。

学生演劇は、若者たちが感じている「社会の今」に触れられるものかもしれない。大学生なりの悩みや苦悩、願望、社会の闇などを表現されているものが多いそうだ。「メッセージ性があつて、どの劇団も素晴しかった」

と、演劇祭を運営する実行委員のメンバーたち。実行委員も、もちろん大学生が中心だ。

「準備を計画通りに進めるために、ときには心を鬼にして厳しくするときもありましたが、みんなと心を一つにして取り組みました」

メンバーの得意分野を見極め、役割分担を決めて行うことの重要性を実感したという実行委員長の鈴木彩里さん。副実行委員長は諏訪遥さん、三年連続の上本瑞和さんをはじめとするメンバーとともに大盛況へと導き、無事に終演。一つひとつの準備が多くの人の手によって、丁寧行われていたこと



を知る。現在は、二〇二六年三月七日から名古屋で行われる『第十一回全国学生演劇祭』に向け、今度は上本さんが実行委員長となり、鈴木さんと諏訪さんも全国学生演劇祭の実行委員として開催準備を進めている。

全国学生演劇祭では、「学生」「演劇」「祭り」の三つを上手く関連付けて盛り上げていきたいと、お客さまが楽しめるイベントも企画中だそう。準備では、各地の演劇祭の実行委員会にも、宣伝などの部分で協力してもらっている。

「オンラインミーティングの中で、知らない地域の話が聞けるのがうれしいです」

新たな人との出会いが視野を広げてくれているという。学生演劇祭というものが、出場する劇団はもちろん、実行委員にとってもさまざまな人たちと繋がることのできる一つのプラットフォームとなっているのだ。

「二〇二六年は名古屋の演劇が熱かったね、といわれたい！」

動員数二〇〇人以上を目指し、さまざまな人たちを巻き込んで準備に邁進中！どんなおもしろいことが起きるのか、楽しみだ。



第11回全国学生演劇祭 3/7(土)～9(月)
ホームページ <http://jstf.jp>



2026年、学生演劇の最前線、全国学生演劇祭が名古屋に。

名古屋学生演劇祭および関連企画の実施
名古屋学生演劇祭実行委員会

第36回助成(団体)

名古屋学生演劇祭は、2012年よりスタート。京都で先に行われていた「京都学生演劇祭」に刺激を受け、アドバイザーである平松隆之さんが中心となって、演劇活動をしている当時の大学生とともに立ち上げる。第14回名古屋学生演劇祭までに、延べ128団体が参加。表現を発表できる場として、学生たちの創作活動を応援している。



後列左 / 諏訪遥さん、右 / 平松隆之さん
前列左 / 鈴木彩里さん
前列右 / 上本瑞和さん

2025年 9月

- mh PROJECT(アートイベント企画・開催) 第35 助成・団体
国際芸術祭「あいち2025」パートナーシップ・プログラム(主催: mh PROJECT_ノコギリニ)〔一宮会場(一宮市)〕
- 劇団天白月夜 第31 回助成・団体
第7 回公演「青空の向こう～チンチン電車を走らせた女学生～」〔天白文化小劇場(名古屋市天白区)〕

2025年 10月

- 山口百子さん(日本画) 第34 回助成・個人
小原瀬戸芸術祭2025 紙の記憶 土の記憶〔瀬戸会場: ギャラリー nani(瀬戸市)、小原会場: 順和山 洞牧寺(豊田市)〕
- 名古屋合唱団 第15 回助成・団体
名古屋合唱団演奏会2025
〔東海市芸術劇場大ホール(東海市)〕

2025年 11月

- クール・ジョワイエ(男声合唱) 第25 回助成・団体
クール・ジョワイエ演奏会2025 ―男声合唱による萩京子の〈個展〉―〔ウィルあいち(名古屋市東区)〕
- 堤淳喜さん(クラリネット奏者) 第21 回助成・個人
つつみあつき クラリネットコンサート vol.100 記念演奏会
〔名東文化小劇場(名古屋市名東区)〕
- 奥三河音楽連盟 第8 回助成・団体
第50 回新城音楽祭〔新城文化会館 大ホール(新城市)〕
- 大嶽隆司さん(演劇) 第34 回助成・個人
てふてふの会 演劇公演 Vol.4 「追憶」台本・演出
〔千種文化小劇場(名古屋市千種区)〕
- 神村泰代さん(アート作品作成) 第31 回助成・個人
「町を紡ぐ 空を縫る 地を綴る 波を綜う ～長者町錦+インディアナコットンプロジェクト2025」〔長者町コットンビル GROUND(名古屋市中区)〕

2025年 12月

- 英語珠算研究会 第32 回助成・団体
2025 年英語珠算競技大会〔大原簿記情報医療専門学校 名古屋校(名古屋市中村区)〕
- 新城吹奏楽団 第6 回助成・団体
第101 回定期演奏会〔新城文化会館 大ホール(新城市)〕
- イミック新子さん(国際文化交流、絵画作品の発表) 第32 回助成・個人
個展 ―旅する子―〔ギャラリー名芳洞(名古屋市中区)〕
- はせひろいちさん(劇作・演出) 第8 回助成・個人
劇団ジャブジャブサーキット VOL.64 創立40 周年&ファイナルツアー「夜の横顔」作・演出〔三重県文化会館(三重県)〕
- 須貝旭さん(絵画制作) 第36 回助成・個人
個展 RACVYOXO 落葉抄
〔サテライトギャラリー SA・KURA(名古屋市東区)〕
- 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26 回助成・個人
「演劇フェスティバル in ちりゅう」ゆめばレット「新美南吉を語る」～スバルタ版「ごんぎつね」と安城での生活～〔知立市文化会館(知立市)〕

2026年 1月

- STRINGS(演劇) 第32 回助成・団体
STRINGS ☆第11 回公演「明日葉の庭」
〔昭和文化小劇場(名古屋市昭和区)〕
- シルバーボランティア 劇団かがやき 第35 回助成・団体
シルバーボランティア劇団かがやき30 周年～深川木戸番ものがたり～通りゃんせ(約束)〔西文化小劇場(名古屋市区西)〕
- 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26 回助成・個人
月に一回、二日間の“のんびり広場”～「寄っとい DAY」生きづらさ・行きづらさ〔とよた市民活動センター・ホール(豊田市)〕

書籍・会報誌等の発行

- 小牧市文芸協会 第2 回助成・団体
9～12 月…郷土文芸誌「駒来」第644～647 号発行
- 野田史料館 第1 回助成・団体
9 月…「野田史料館報」第173 号発行
- 長久手市郷土史研究会 第13 回助成・団体
9 月…「胡牀石」第66 号発行
- 江南郷土史研究会 第3 回助成・団体
10～1 月…「江南郷土史研究会会報」560～563 号発行
- 古井戸芳生さん(現代美術) 第12 回助成・個人
10 月…銀座の画廊の画家・村上肥出夫2025 古井戸芳生執筆 時間の圧縮メモより 発刊
- 名古屋郷土文化会 第7 回助成・団体
10 月…「郷土文化」第80 巻第1 号発行
- 尾北郷土誌の会 第36 回助成・団体
10 月…「尾北郷土誌」第2 号発行
- まつり同好会 第25 回助成・団体
11 月…「まつり通信」639 号発行
- ため池の自然研究会 第26 回助成・団体
12 月…「ため池の自然」No.66 発行

YouTube

- 菅谷瑞恵さん(教育・演劇) 第33 回助成・個人
「満蒙開拓を語り継ぐ」手記朗読プロジェクト
〔毎週月曜日22:00～配信〕

これからの公演

- 中部産業遺産研究会 第30 回助成・団体
2/3～2/23…第20 回パネル展と講演会「大正ロマン・昭和レトロのモノがたりⅢ」
〔名古屋都市センター(名古屋市中区)〕
- 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26 回助成・個人
2/11・12、3/4・5…「寄っとい DAY」生きづらさ・行きづらさ
〔とよた市民活動センター・ホール(豊田市)〕
- 加藤恵利子さん(コンサートの企画・出演) 第36 回助成・個人
3/3…「みみコン5」〔宗次ホール(名古屋市中区)〕
7/4…「みみコン6 for KIDS!!」
〔熱田文化小劇場(名古屋市熱田区)〕
- 名古屋学生演劇祭実行委員会 第35 回助成・団体
3/7～9…「第11 回全国学生演劇祭」
〔メニコン シアター Aoi(名古屋市中区)〕

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

矢を放つまで身体のさまざまな部分へ力をめぐらせ、一つひとつの動作を流れるように繋げていく――。弓道のおもしろさを教えてくれたのは、半田工科高校弓道部の顧問である野呂貴尋先生。弓道を好きになってもらうことを第一に指導している。部員たちのほとんどは、経験のないゼロからのスタートとなる。弓を引くための第一歩として、まず初めに覚えるのが基本となる一連の動作「射法八節」だ。弓や矢を持たずに練習するのだが、日常とは違う動作の習得は初心者にとって難しく、一つひとつの動作が分かれてしまう。その難しさを乗り越え初めて弓を引くとき、多くの部員が次の難解に向き合うことになる。弓の弦が頬をかすめるという恐怖や、どこに飛んでいくのかわからないという恐怖だ。この恐怖を取り除くには、練習あるのみ。一本でも多く矢を放ち慣れるしかない。そのポイントとなるのが正しい射形であり、部員たちは動画を撮って見直したり、アドバイスをし合いながら理想の射形を追求していく。

心地よい緊張感に包まれた道場から聞こえてくるのは、矢を放つ音と、後輩を指導する先輩の声だ。一年生はすっかり先輩の言葉を受け止め、また先輩の姿を見て覚えていく。そこには、真剣なまなざしで教え、学ぶ姿勢があった。

「思いがなかなか伝わらず、もどかしさを感じることもあります」

技術を伝えることの難しさを話してくれた部長の山川颯太さん。教えてくれた先輩たちの偉大さを実感し、理想とする先の部長の姿に追いつきたいと日々練習に励んでいる。

「当てたいという欲に駆られることなく目の前の一矢に集中し、いかにやるべきことをやるのが大切だと思います」

常に平常心で臨むために、気持ちの持っていき方などを伝えている野呂先生。壁にぶつかったときに向き合い方を話し合い、自分で乗り越えていけるようサポートしてくれる野呂先生は、部員たちにとって頼れる存在となっている。

二〇二五年の大会では、チーム戦、個人戦ともにあまり成績が振るわず悔しい思いをした。その悔しさをバネに県大会出場、その先の全国大会出場を目指し、部員たちは闘志を燃やしている。



部長
山川颯太さん

理想の射形を求めて。 進化し続ける部員たち。

弓道部 愛知県立半田工科高等学校

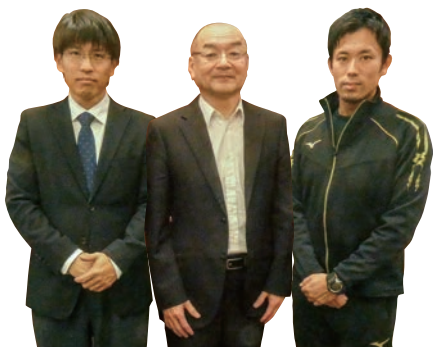
第36 回援助(高校生)

現在の部員数は16名。2019 年愛知県高等学校新人体育大会男子団体の部で優勝、第41 回全国高等学校弓道選抜大会男子個人の部に出場、2024 年知多支部高等学校弓道選手権大会男子団体の部で優勝など、入賞多数。弓道をととして礼儀や人への気遣いなどの部分で、部員たちの成長を感じている校長の高木永幸先生と教頭の小島直樹先生。目標に向かってがんばる部員たちを、あたたかく見守っている。

教頭
小島直樹先生

校長
高木永幸先生

顧問
野呂貴尋先生



編 ・ 集 ・ 後 ・ 記

やり始めると、ついつい夢中になってしまうのがゲーム。私の中では一人で行うイメージが大きかったですが、チームを組んで仲間と一緒に楽しめるゲームなどいろいろあることを今回の取材で発見しました。e スポーツは、アジア競技大会の正式競技であり、3月にはその選考会となる大会も開催されます。会場にぜひ足を運んで、その熱狂に触れてみたいと思いました。

表 ・ 紙 ・ 作 ・ 品



「未来へはじけるチカラ」縦 約430×横 約270cm

素材等: アクリル絵の具 (イベントカラー)

一般社団法人ワンダーハート(第35回助成)

●作者の言葉

一人ひとりの色がはじけるように重なった共同作品です。制作の時間は笑顔であふれ、展示でも「元気が湧く」と大きな反響をいただきました。未来へ進む力を込めた一枚です。



あゆち第103号 ● 2026年1月

発行: 公益財団法人 あいちFG教育文化財団

〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号 あいち銀行本店内

☎ (052) 262-9601

<https://www.aichi-fg.co.jp/sustainability/attempt/social/foundation/>

